

浄妙寺 十二所の古寺めぐり

11月2日（火） 大貫昭彦先生のご案内で、鎌倉へ出かけました。
この季節としては暖かく、陽ざしの中を歩くと汗ばむほどでした。
大貫先生の散策は、コロナウィルス感染拡大による中止が続いたため、
1年ぶりとなりました。参加者は18名でした。



十二所 光触寺で講師の解説に、熱心に耳を傾ける参加者の皆さん

光触寺の開基は一遍上人で、時宗のお寺です。
本尊の阿弥陀如来立像（脇侍とともに国重文）は頬焼阿弥陀として知られています。

この寺は長押なげしの釘隠しに菊のご紋があしらわれ、後醍醐天皇の勅額を賜った格別の寺院です。



光触寺境内の しおなめ 塩管 地蔵

もとは金澤街道（六浦道）の傍らにありました。
六浦（横浜市金沢区）の塩売りが鎌倉に商いに行く時、朝この地蔵に初穂として一つまみの塩を備えるのが習いでした。
帰りに通ると塩はなくなっており、この地蔵が塩をなめてしまうのだろうといわれ名付けられました。
金澤街道は、別名「塩の道」とも呼ばれました。
今も塩が備えられています。



浄妙寺境内にある石窯ガーデンテラスでの昼食

浄妙寺は、鎌倉五山の第五位の格式をもつ臨済宗のお寺です。
浄妙寺は、鎌倉における足利氏の本拠地でもありました。
石窯ガーデンテラスへは、山門をくぐり、境内を抜けて坂道を上ります。
約 80 年前の貴族院議員の瀟洒な邸宅を改装してつくられたレストランです。
参加者には高齢の方が多く（90 代の方も）、坂道を上るのは大変でした。
気持ちのよい秋風が吹き、ランチを楽しみました。



浄妙寺本堂をバックに記念撮影

浄妙寺は、往時には杉本寺まで 23 の塔頭をもつ大寺院でしたが、今は寄棟造本堂の銅板葺の屋根が黄緑色に明るく望まれるのみです。

また近年、かつて僧たちが茶を喫した「喜泉庵」が復元され、庭園を眺めながら抹茶（有料）をいただくことができます。

皆さん、今日もしっかり歩きましたね。

久しぶりの大貫先生もお元気そうで、何よりでした。